

### —第1回—

# 「新型コロナウイルス感染症対策と 病院機能」

茨城県立中央病院  
茨城県地域がんセンター

しま ずい  
病院長 島居

とおる  
徹



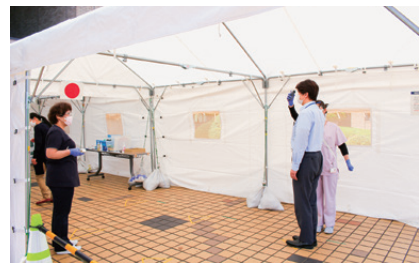
4月1日に新病院長として着任しましたが、同日に茨城県内で新型コロナウイルス感染症の拡大がみられました。

当院は本感染症への対応として、それまでも接触者外来、PCR検査への協力、面会禁止、来院者の検温のお願いや電話診療のご案内など、スクリーニングと感染防止に務めてまいりましたが、県内の入院病床が逼迫した状況を受けて、4月2日から本感染症患者の入院治療を開始しました。その後、入院患者数の急な増加がみられたため、感染症患者の入院治療受け入れ中であることと通常診療の制限をお知らせし、病院機能を本感染症の治療やPCR検査にシフトし、その他の対応もスピード感とバランス感に留意しながら行ってまいりました。直接、本感染症患者さんに接触するリスクや県内の拡大状況に合わせ、PCR検査のドライブスルー化、全職員の検温とその管理、全来院者の検温、手術患者さんの術前PCR検査などを順次導入し、本感染症と戦ってまいりました。

この2ヶ月弱の間、国の緊急事態宣言や特定警戒都道府県の指定など県内でも多くの制限がありましたが、5月末時点、これらが解除されつつあり、日常生活をどのように取り戻すか、という新しい生活様式が議論されるようになってまいりました。

当院の本来の病院機能は、日常的な一般診療に加え、地域医療との連携を伴った高度専門的な内

科外科がん診療、救急診療、産科診療などの専門的医療ですが、新型コロナウイルス感染症による制限のため、多くの患者さんにご不便ご迷惑をおかけしていることをお詫びするとともに、これまでのご理解に感謝いたします。本感染症は長期化あるいは第2波の発生などが予測されておりますので、今後本感染症との共存という形態が求められると思います。対策の緩和は慎重かつ段階的であること、医療現場の対策緩和は最後の段階でと考えられますので、引き続きご不便やご心配をおかけするかもしれませんが、何卒ご理解ご協力をお願いいたします。



当院における新型コロナウイルス感染症対策の一つ、正面玄関での体温測定実施の様子